

6 JUN. 企業と広告

新制度始まり機能系商品の広告活発化
働く女性への効果的なアプローチ
若者獲得狙う公営競技／動画活用の秘訣



すっぱい人生は、いけませんね。



すっぱいのは、
もう嫌だ〜っ!!

味はまろやか、菌も活きいき。
家族を思えば **ビヒダス**
森永乳業

講座

Web 広告

村山 哲治

モバイル対応は レスポンス Web デザインで

■ Google から今後のモバイル サイトの方向性を示す発表

スマホ普及の話はもう誰しもが知る状況ですが、企業サイトにおいてPCサイトとスマホ対応されたサイトをそれぞれ準備し、運営しているところはまだまだ少ないのが現状のようです。その理由として、閲覧対象がBtoB環境なのでそれほど必要はない、同業他社がそこまで力を入れていないなど理由も様々。

しかし、そんな理由で先延ばしに出来ない事情がモバイル環境の中でじわじわと広がってきているのです。まず、サイトの閲覧環境においてもBtoBのサイトでも2割程度は閲覧デバイスがPC以外のモバイルになっており、これは見過ごせる数値ではありません。

それに加えてPCサイト同様にモバイル環境でもSEOにインパクトを与えるGoogle

から「モバイルフレンドリー」なサイトであるかどうか、この4月21日より検索順位に影響するようになると発表がありました。

モバイルフレンドリーとは、スマホ閲覧に対応しているということであり、未対応ならスマホでの検索順位が落ちてしまうかもしれないということなのです。

■ 「モバイルフレンドリー」に どう対処すべきか？

検索順位が落ちるかもしれないと、今後の展望をやや控えめに表現しましたが、Googleの発表にはもっと強いメッセージが感じられます。スマホ普及に対して、どれだけ本気で情報提供をユーザーにサポートする気があるのかが迫られており、モバイルフレンドリーでなければそこからのアクセスが今後望めなくなるのは間違いないでしょう。

そこで、サイト運営者としてのアクションはモバイルフレンドリーなサイトをすぐに作成するか、モバイルサイトの対応状況を見ながらじっくりと対処していくか、主たる利用環境はあくまでもPCサイトと割り切って無視するか、の3択が考えられます。

① すぐにモバイルフレンドリーに対応するサイトを作る

モバイルからのアクセスは、間違いなくこれまで以上に増え続けます。BtoCサイトであれば有無をいわず対応は必須だと認識した方がよいでしょう。

この場合、2通りの実施方法があり、すでにモバイルサイトを開設している場合と、モバイルサイトをまだ開設してない場合で取るべき段取りは変わってきます。

既にモバイル対応しているならば、「モバイルフレンドリーテスト」またはGoogleウェブマスターズにある「モバイルユーザビリティレポート」を活用して現状をチェックし、その改善を含めて対応していくことが望ましいでしょう。そして、モバイルサイトが未対応であれば、モバイルフレンドリーのガイドラインに沿ったサイトを作ります。このとき、できれば今後のサイトの運用も考えてプログツールであるWord pressなどを用い、「レスポンスWebデザイン (RWD)」



で構築するとよいでしょう。

②モバイルサイトの対応状況を見ながらじっくりと対処する

今回のような発表はいろんな憶測を呼ぶため、突貫工事でモバイルサイトを準備した企業も少なくないと聞きます。しかし、実際には実施から1カ月ほどたった今現在、検索順位が大きく下がったとか上がったという話はまだ聞きませんし、弊社管理のクライアントサイトを見てもまだそれほど変化はないようです。こうしたものは、もう少し時間をかけて徐々に影響が出て来るものではないかと思えます。そこで、効果が出はじめた状況を観察しながら、どのような対策をとると検索で上がりやすいのかなど情報収集しながら開発を進めるという対応もよいのではないのでしょうか。特にサイトをPCと連動させるレスポンシブ仕様にするのと併せてPCサイトも同様の仕様にしなければならないため、検討期間や開発期間はそれなりに時間のかかるものになると思います。いずれにしても時間をかけて準備するのであれば、サイトのビジネスモデルやユーザー特性を見極めながら検討することがポイントになります。

③特に対応を行わない

今回のようなネット戦略を考えるうえで重要な岐路となる状況においても、あえて対応を行わないという選択肢もあります。それはBtoBサイトのように閲覧のほとんどはPCからで、サイトの使い方や利用環境から見ても今後もモバイルからのアクセスや利用は考えにくいようであれば、現時点でモバイルサイトの対応は考えなくてもよいのではないかと思います。業務系の受発注サイトや閲覧者

を限定したイントラサイトなどがそれに該当します。いずれにしてもサイトのログ分析はしっかり行って、デバイス別の流入においてモバイルからの比率がどの程度あるのかを検証する必要があります。

■モバイル対応に最適なレスポンシブ Web デザイン

これを切っ掛けにいよいよ自社にとってもモバイルサイトを本格的に作成し運用するフェーズにもう来ていると認識するサイト運営者も多いことでしょう。現に弊社でも駆け込みで何社ものモバイルサイトを作成させていただきました。

ここでサイト運営側として頭を悩ませるのが予算だと思います。画面の大きさがPCと比べうんと小さいから制作費もPCの半分以下でしょう、なんてことを言われたことありますが、制作する工数はPCサイトとそれほど変わらないため、ほぼ同じと思ってよいと思います。もちろん作り方次第でコストを抑える方法もありますが、私は「RWD」で作成することをお勧めします。

その理由は2つあります。まずGoogleが「RWD」を推奨していることと、サイトを運用管理する上で1回の更新作業でPCサイトとモバイルサイトの両方に反映できるという業務軽減メリットもあるからです。

そもそも「RWD」とは、サイト構築をCSSによって切り替えることでモバイルデバイス画面にあわせたデザインに最適化する手法です。そのメリットは運用の簡易さにあります。ECサイトで商品を追加更新するような場合、HTMLソースを一つ修正するだけでPCサイトとモバイルサイトに適用できます。これがPC、モバイルとも異なったサイトを別々に運用している場合、それぞれのページを更新しなければならないという手間がかかることになるのです。

これからSEO対策もPCに加え、いよいよモバイルも同様に検討していかなければならない時代に入ってきたことは間違いないようです。

(東京ドアーズ/人間力教育センター代表)